

事務局から

編 集 後 記

▼研究所創設30周年を迎え、この6月22日「今日の歴史問題の本質を考える」をテーマに敬和学園大学の藤野豊さん（尖閣諸島慰安婦、竹島問題などをグローバルに見る）、何為民さん「なぜ今中国破海洋進出戦略を打ち出したか」、それぞれ記念講演をお願いしました。講演後は熱心な意見交換を行いました。安倍政権の歴史修正主義で、教科書の内容を変え、子どもたちに「戦争のできる国」としての教育をすすめる状況に、正しく冷静に近代史を学ぶことの重要性を共有できました。

▼国の義務教育国庫負担制度の改悪、総額裁量制を導入されて以来、臨時教職員（非雇用）が大幅に増加しています。

県内でも小中高において急速に増えており、県労連・公立高教組・私教連共催で、研究所も参加し、県内で働く臨時職員に面接で労働条件など聞き取り調査を実施しました。

次号は、非正規雇用の教職員の労働実態を明らかにし、そのもとで子どもとの教育とどう関わり合っているかを特集します。（内山）

▼安倍内閣の暴走が止まりません。一つは「教育改革」で、もうひとつは集団的自衛権です。この二つを併せると「愛国心」と「戦争する国」に収斂します。集団的自衛権については人に話す必要もあつて、一カ月間ほど新聞何紙かを丁寧に読みました。ところがその解釈のいい加減さと、巧妙な用語づかいに驚きました。さらに国会審議をないがしろにしています。後世に禍根を残す政治は許せません。

▼この雑誌が皆さんのお手許に届く頃には、教育委員会の「改正案」は国会を通過していると思います。「通信」も含めて、ひきつづいて憲法と教育を守るキャンペーンを継続します。会員の皆さんのご寄稿を歓迎します。

▼成嶋さんには前号にひきつづいて原稿をお願いしました。沖縄県竹富町に調査に行かれたうえでの論稿です。文科省の権力に任せた理不尽な「干渉」の経過が丁寧に書かれていて怒りを覚えます。

▼今号まで4回にわたって連載された瀬賀弘行さんの「町医者日記」が終わります。医

師の立場から、どのようにして豊かな人生の終末を迎えるかを述べたものですが、高齢期に入った者として参考になりました。ありがとうございました。（大滝）

にいがたの教育情報 No. 115

2014年7月4日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭 三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。